経営成績・財務状況の分析

2020年度の振り返り

2020年度は、リモートワークやオンライン教育を背景にPCの需要が好調に推移し、また、巣ごもり需要によりゲーム機の需要も堅調に推移しました。スマートフォン市場では、2020年度第2四半期以降は5Gの立ち上がりを背景に旺盛な部品取り込みの動きがみられました。自動車市場では、2020年度第1四半期における自動車メーカーでの工場稼働停止や、2020年度第4四半期に生じた半導体不足もあり、自動車の生産台数が前年比でマイナスとなったものの、今後の生産増加に備えた部品の取り込みがみられました。

そのような中、2020年度の売上高は、樹脂多層基板やリチウムイオン二次電池がスマートフォン向けで減少したものの、積層セラミックコンデンサが幅広い用途で堅調であったことに加え、インダクタやコネクティビティモジュールがPC向けで増加し、また、高周波モジュールがスマートフォン向けで増加したことなどにより、前年度比6.3%増の1兆6,302億円となり、過去最高を更新しました。

利益は、製品価格の値下がりや為替変動の影響などの減益要因はあったものの、生産高増加にともなう操業度益やコストダウンなどの増益要因により、営業利益は前年度比23.7%増の3,132億円、税引前当期純利益は同24.6%増の3,164億円、当社株主に帰属する当期純利益は同29.5%増の2,371億円となり、それぞれ過去最高を更新しました。

「中期構想2021」において重視する経営指標としてROIC（Return on Invested Capital）（税引前）を掲げております。当年度のROIC(税引前)は、中長期的な電子部品需要の増加を見据えて、建物や生産能力増強のための設備投資により投下資本が増加したものの、営業利益が増加したことにより、前年度比2.4ポイント上昇の18.5%となりました。

● **営業利益の増減実績**（単位：億円）

製品別の売上状況

（単位：億円）

	19年度実績	20年度実績	増減（伸び率）	増減要因
コンデンサ	5,594	6,265	+671（+12.0%）	積層セラミックコンデンサについて、PC及び関連機器向けが大きく増加し、また、スマートフォン向けやカーエレクトロニクス向けも旺盛な部品取り込みの動きがみられたことにより、前年度比で増収となりました。
圧電製品	1,293	1,293	+0（+0.0%）	表面波フィルタがIoT機器向けに増加したものの、圧電センサがカーエレクトロニクス向けで減少したことにより、前年度比で横ばいとなりました。
その他コンポーネント	3,630	3,876	+246（+6.8%）	リチウムイオン二次電池において事業ポートフォリオ見直しを進めている影響でスマートフォン向けの売上が減少したものの、インダクタがPC向けで増加したほか、コネクタがスマートフォン向けで増加したことにより、前年度比で増収となりました。
モジュール	4,786	4,841	+55（+1.1%）	樹脂多層基板がスマートフォン向けで減少したものの、高周波モジュールがスマートフォン向けで増加したほか、コネクティビティモジュールがPC向けで増加したことにより、前年度比で増収となりました。

用途別の売上状況

（単位：億円）

	19年度実績	20年度実績	増減（伸び率）	増減要因
AV	610	719	+108（+17.8%）	デジタルカメラ向けでコネクティビティモジュールやリチウムイオン二次電池が減少したものの、巣ごもり需要を背景にゲーム機向けでリチウムイオン二次電池や積層セラミックコンデンサが大きく増加したことにより、前年度比で増収となりました。
通信	7,922	8,049	+128（+1.6%）	基地局向けで積層セラミックコンデンサが減少したものの、スマートフォン向けで積層セラミックコンデンサや高周波モジュールが増加したほか、ウェアラブル機器向けで積層セラミックコンデンサやコネクタが増加したことにより、前年度比で増収となりました。
コンピュータ及び関連機器	2,305	2,915	+610（+26.5%）	リモートワーク向けやオンライン教育向けの需要を背景にPC向けで積層セラミックコンデンサやコネクティビティモジュールが大きく増加し、また、サーバやデータストレージ向けで積層セラミックコンデンサが増加したことにより、前年度比で増収となりました。
カーエレクトロニクス	2,635	2,732	+97（+3.7%）	自動車の生産台数が減少したものの、今後の生産増加に備えた部品の取り込みがみられ、積層セラミックコンデンサの需要が増加したことにより、前年度比で増収となりました。
家電・その他	1,831	1,861	+30（+1.6%）	住宅市場の低迷により定置用蓄電池の需要が減少したものの、パワーツールやクリーナー向けでリチウムイオン二次電池が増加したことなどにより、前年度比で増収となりました。

（注）当社推計値に基づいております。

財政状態の概況

（単位：億円）

	19年度実績	20年度実績	増減（伸び率）	増減要因
資産の部	22,502	24,623	+2,120（+9.4%）	主に現金及び預金や有形固定資産の増加により、前年度末比で増加しました。
負債の部	5,554	5,406	△ 148（△ 2.7%）	主に短期借入金の減少により、前年度末比で減少しました。
資本の部	16,948	19,216	+2,268（+13.4%）	主に利益剰余金の増加により、前年度末比で増加しました。株主資本比率は、同比2.7ポイント上昇の78.0%となりました。

キャッシュ・フローの状況

（単位：億円）

	19年度実績	20年度実績	増減（伸び率）	増減要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,503	3,736	+232（+6.6%）	売上債権の増加が426億円となりましたが、当期純利益が2,370億円、減価償却費が1,431億円となったことなどにより、3,736億円のキャッシュ・インとなりました。
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,844	△ 1,503	+1,342（+47.2%）	有価証券及び投資項目の償還及び売却が427億円となりましたが、建物や生産能力増強を中心とした有形固定資産の取得による支出が1,999億円、有価証券及び投資項目の購入が265億円となったことなどにより、1,503億円のキャッシュ・アウトとなりました。
財務活動によるキャッシュ・フロー	177	△ 1,182	△ 1,358（ー）	配当金の支払いが672億円となり、また、短期借入金の減少が509億円となったことなどにより、1,182億円のキャッシュ・アウトとなりました。

セグメント情報の概況

（単位：億円）

		19年度実績	20年度実績	増減（伸び率）	増減要因
コンポーネント	売上高	10,983	11,754	+771(+7.0%)	コンデンサ・インダクタ・コネクタなどの売上が増加したほか、2019年度はリチウムイオン二次電池の減損損失を計上したことにより増収増益となりました。
	事業利益	2,497	3,130	+633(+25.4%)	
モジュール	売上高	4,786	4,841	+55(+1.1%)	樹脂多層基板がハイエンドスマートフォン向けで減少したものの、高周波モジュールがハイエンドスマートフォン向けで増加し、またコネクティビティモジュールがPC向けで増加したことにより、増収増益となりました。
	事業利益	494	543	+48(+9.8%)	
その他	売上高	592	611	+18(+3.1%)	ー
	事業利益	57	78	+21(+36.1%)	
消去又は本社部門費	売上高	△ 1,021	△ 904	+118(ー)	2019年度は貴金属売却益(+78億円)の発生があったことや、2020年度はみなとみらいイノベーションセンターやスマートファクトリーに関する費用の発生により全体として費用が増加しました。
	本社部門費	△ 516	△ 618	△ 103(ー)	
連結	売上高	15,340	16,302	+961(+6.3%)	ー
	営業利益	2,532	3,132	+600(+23.7%)	